



自然に身につく寛容力



多くの人が暮らす人間社会では、お互いの事を考え、思い、我慢をしながら生きていかななくてはなりません。

みんなが自分の思いだけで行動してしまえば世の中の秩序もなくなり不満がたまるだけでなく、時には大事件や犯罪に発展してしまうかもしれません。

もちろん生活環境や、個性によって、人の我慢はそれぞれ違いますがいずれにしても人は必ず我慢をしなくてはならないのです。我慢という堪え忍ぶといった考えから、辛いもの、出来ればしたくないものにとらえられ、生きていく中のマイナス要因となります。

ところが犬と暮らしていると、その我慢に対する考え方も少し変わってきます。犬は人と違い、その個性も生活も違います。

更に学校にも行きませんし、法律も学びませんから、明らかに人と同じ考えを持つことはないのです。犬が夜中に吠えれば、人は寝付けず大迷惑と考えますが隣の犬が夜中に吠えても、犬同士の間では、なにか異常なことが起きて知らせているのだろうか、何が起きているのだろうかとは思いますがその声や音自体を迷惑と考えることはありません。

もちろん鳴き声だけでなく、言葉を話しませんから、突然の予期せぬ行動も起こしますし、体調が変化することもあります。

言葉を発する人間が家庭内で同じ事をすれば「どうして、言わないの!」と怒ることも相手が犬では「しょうがないわね。」と諦めるしかありません。

実は、この日々の諦めが人の心を自然に無理なく成長させます。

子犬の時からの犬との暮らしは意外性と我慢の日々です。

もちろん自分を慕ってくれたり、甘えてくれたりと、めいっぱいの愛情表現はしてくれますから、飼い主としても、意のままにならないからといってやみくもに怒ったりはできません。仮に困ったことが起きていたとしても、笑いながら許すしかないので。同じ我慢であっても、歯をくいしばり、耐えに耐える我慢は精神的にも肉体的にもストレスとなり、体調さえくずしてしまいますが、愛犬の困った行動による我慢は、ニコニコと笑みさえうかべながら出来る我慢なのです。

この明るい、快適な我慢こそが、私たちを寛容な心の豊かな人間へと成長させてくれるのです。犬から受けた迷惑や困りごとと比べれば奥さんや旦那さんの些細なわがままや、ちょっとした部下の失態は目くじらを立てて激怒するほどのことではないと感じ始めるでしょう。